

今日の一品

／ マメ科 「3兄弟」 ／



カラスノエンドウ



カスマグサ



スズメノエンドウ

毎年、春になると立高の敷地内で花を咲かせるマメ科の植物を3種紹介します。

カラスノエンドウ(ヤハズエンドウ) *Vicia sativa*, スズメノエンドウ *Vicia hirsuta*, そしてカスマグサ *Vicia tetrasperma*です。エンドウと名付けられていますが、ソラマメ属です。

3種類の中で一番目立つのはカラスノエンドウ(標準和名 ヤハズエンドウ)です。カラスノエンドウの由来には諸説ありますが、カラスがこの豆をよく食べるからだとの説もあります。それ以外にも、黒く熟した豆の鞘の色がカラスを想像させるからだ、スズメノエンドウよりも大きいからカラスだ、などが代表的な説です。紫色の花も目立ちますが、果実の黒い鞘も印象的です。(右写真)

立高の正門付近に生えているカラスノエンドウにはよくアブラムシがついています。アブラムシの捕食者となるテントウムシもよく見られます。そのテントウムシをアブラムシから追い払う役割のアリもカラスノエンドウにやってきますので、カラスノエンドウの植物体の上では、いろいろな生物の関係を観察することもできます。

カラスノエンドウよりも明らかに小さく、花弁の色が薄い青色をしているのがスズメノエンドウです。トレーニングルームの西側の道路沿いに群生しています。

そして、カスマグサです。この植物名の由来は、想像できますか? 「か」「す」「ま」草でしょうが、「ま」は間だといわれています。「か」と「す」の間という意味です。ハトノエンドウとかツバメノエンドウではなく、「カラス」と「スズメ」の間にしたようです。スズメノエンドウに似ていますが、花弁の赤みが強いこと、花が2つしかつかないこと、鞘の中にある種子が4個であることなどから区別できます。個人的には3種の中で一番好きな花です。「控え目ですが気品がある」そんな印象を持たせてくれます。

今は花が終わり、黒・褐色の鞘が目立って見られる時期です。スズメノエンドウやカスマグサが一番見分けやすい時期かもしれませんね。



カラスノエンドウの鞘
(種子10個以上)



カスマグサの鞘(種子4個)



スズメノエンドウの鞘(種子2個)



左から、カラスノエンドウ・カスマグサ・スズメノエンドウ

格技棟脇の植え込みでは、(除草されていなければ) 3種類が同じ場所に生えていて簡単に比較することができます!

※写真はすべて立高の敷地内で撮影したものです。